

審議会等名	第2回 つくばみらい市介護保険事業計画等策定委員会 会議録	
開催日	令和8年2月4日（水）午後1時30分～午後3時30分	
開催場所	つくばみらい市役所伊奈庁舎3階 大会議室	
出欠者	【出席者】	浅川育世会長、小松崎八寿子委員、沼尻和博委員、坂入教男委員、菊地広志委員、間宮正孝委員、古舘千恵子委員、東野幸代委員、宮本瞳委員、豊島美智子委員、松本稔恵委員、飯田昌吾委員、片倉義徳委員、浅川昭一委員
	【欠席者】	なし
	【事務局】 介護福祉課	中村課長、飯泉課長補佐、原田係長、田中主幹 浅香主幹
	【コンサルタント】	Next-i株式会社さいたま支店 山口
傍聴者	1人	
会議次第	1 開会 2 会長あいさつ 3 議事 （1）報告事項 ①アンケート調査結果について【速報値】 ・介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 ・在宅介護実態調査 ・介護保険サービス指定事業所調査 ②第9期計画の進捗状況について 4 その他 5 閉会	
会議資料	・会議次第 ・つくばみらい市高齢者福祉計画・第10期介護保険事業計画に係るアンケート調査結果【速報値】（資料1）	

	<ul style="list-style-type: none"> ・第9期計画の進捗状況について（資料2）
議 案	<ul style="list-style-type: none"> 1. 報告事項 アンケート調査結果について 第9期計画の進捗状況について 2. その他
議案概要	<ul style="list-style-type: none"> ・開会 午後1時30分 ・浅川会長よりあいさつ ・議案①について つくばみらい市高齢者福祉計画・第10期介護保険事業計画に係るアンケート調査結果【速報値】（資料1）について説明。 <p><質疑応答></p> <ul style="list-style-type: none"> ・浅川委員長 ニーズ調査は、転倒などに不安を持っている方もいる一方で、運動などを行っている方も見受けられた結果になっている。P8 問3 オーラルフレイルに関わる部分についても不安に思う方もいる。口腔機能低下による心身機能低下につながることもあるので、気にしてほしい。 社会参加で健康づくり活動をしたいという人も一定数見受けられる。参加意向はあるが実際はつながらないこともあるので、仕掛けづくりや勧奨などできればと思う。 ・沼尻委員 P14 問8 認知症の相談窓口を「知らない」が70%、かるがもカフェも「知らない」が80%と高い。広報、HP等で周知をしているが、情報弱者に伝わっていないと感じた。かるがもカフェは家族支援にもなるので、良い取り組み。周知ができるとうい。 ・浅川委員長 事業の周知についていかがでしょうか。 ・事務局

周知の方法では広報が中心ですが、最近では LINE など SNS を活用し配信している。必要になったときに情報を得る傾向があるので、口コミやケアマネからの直接的な情報を、必要な人に然るべきタイミングに情報の提供ができるように心がけたい。また、初めて事業を利用するにあたって、一人ではなく、誰かと一緒に参加するなど必要な方に寄り添った取り組みも必要になってきている。

・菊地委員

P32 介護している家族への支援についてで「緊急ショートステイ」の必要性も出てきている。施設側としてもその時に必要な人を受けられるようにしていきたい。在宅サービスでは前回調査結果に比べて、人材不足が解消されているという認識でよいのか。

・事務局

前回計画策定時に比べて解消されつつあるが、事業によって異なると思われる。新たな事業に取り組む場合などは人が足りないなども聞いた事がある。

・間宮委員

P5 問1で家族構成を聞いている。ここで一人暮らしが2割、夫婦2人暮らし(65歳)の割合が3割。この結果をみるとゆくゆくは一人暮らしが多くなっていくのかなと感じた。そのあたりを行政と地域とお互いに支えていくのは大きい課題だなと、調査結果を見て感じた。

・坂入委員

P17 問11(7)住み慣れた地域において、在宅で自立した生活を続けていくための支援について「ゴミ出し」の要望について、生活環境課でゴミ出し支援サービスを実施しており、良い制度だと思う。ただ、要件があり利用できる方も限られている。認定を受けている人は介護者がいる状況だが、身の回りのことができるけど、外までなかなか行けない方もいるため、そういった方への支援も必要。

	<ul style="list-style-type: none"> <p>・事務局</p> <p>地域ケア会議でも生活全般の要望が上がってきている。ちょっとした支援があると自宅で自立して生活できる方も増えてきている印象。今後、必要な方に必要なサービスが提供できるよう、そういったことも踏まえて協議していけたらと思う。</p> <p>・小松崎委員</p> <p>在宅サービスのヘルパーさんの人材の状況など、東野委員に話を伺いたい。</p> <p>・東野委員</p> <p>市内のヘルパー事業者さんでも、人材が足りないところもあり、相談しても空き状況がない。地域によっては事業所から遠くて、頻繁な援助が必要な方は受け入れが難しい。市外の事業所は要支援は受け入れてくれる事業所がなくて、探すのが大変と聞く。</p> <p>・小松崎委員</p> <p>そのような状況を踏まえると、一人暮らしや高齢者夫婦世帯など家族がみることができなくなってくる。公共のサービスを使って在宅生活を継続していくために、てこ入れをしていかないと「在宅で最後まで」というのは難しい。</p> <p>・宮本委員</p> <p>P18 問 11 (10) 災害や火災などの緊急時の自主避難の可否などの結果をみると、一人で避難ができないという方もいる。特に3番の「介護者がいても外部の支援が必要」という方が24人いる。このような方が災害時要援護者台帳（災害時要支援者名簿）に登録していなければ見落とされる人もいるのかなと感じる。サービス利用者の方には契約時に災害時の対応について、災害対策や備蓄など促すが受け入れてくれない方もいる。そういった方には、地域で活動している民生委員と協力しながら、支援ができる体制ができるとよいと感じた。</p> <p>・間宮委員</p> <p>災害時要援護者台帳（災害時要支援者名簿）に上がっている方</p>
--	---

	<p>は定期的に訪問、65歳以上の独居の方は行政から名簿を預かって少しずつ訪問を広げている。社協職員と一緒に訪問したり、社協に申し出があったりするケースもある。高齢者夫婦世帯も増えているため、どちらかが入院してしまうと一人になるという状況にもなり、すべてを把握することは難しい。</p> <p>・議案②について 第9期計画の進捗状況について（資料2）について説明。</p> <p><質疑応答></p> <p>・松本委員 かるがもカフェについて好評を得ている。ぜひ広げていくために、民生委員やケアマネを通じて、チラシなどで周知啓発していただけたらと思います。</p> <p>・事務局 平成23年度に地域のボランティアを養成し、家族介護者への支援に取り組んできた。近年は認知症カフェとして活躍していただいている。引き続き周知啓発をしていきたいと思う。</p> <p>その他</p> <p>・次回会議については令和8年7月頃を予定。</p> <p>・閉会</p>
--	--